

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890300153		
法人名	(株)ほっとりハビリステムズ		
事業所名	極ほっと倶楽部		
所在地	越前市高木町111-2		
自己評価作成日	令和4年 7月 11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和4年 7月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多職種連携でケアを行っている 看取りも行っている 人の約立てるよう生きがいをもって活動して頂いています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道沿いに位置し、法人の本社をはじめ同法人の事業所が隣接している。看護小規模多機能事業所と併設し職員が兼務することで、看護職、リハビリ職(PT・OT・ST)、介護職等の多職種連携を確立している。また、利用者、家族の希望に沿って看取りを行うなど重度の利用者も安心して暮らすことができる事業所であり、法人の代表が目指す活動をしっかり展開している。さらには法人が経営する隣接の通所事業所の休業日(日曜開放)を活用し、リハビリやジム、シアターなどを楽しむことができるよう法人内で連携・工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に代表から読み解いて頂きみんなが共有しレポートを書き実践している。部屋担当を作り日々信頼関係を作っている。	法人独自の活動理念と総括目標を毎年掲げ、運営している。職員は定例の会議で理念を唱和するとともに、理念を記載した手帳を日々所持し実践している。また、利用者や家族に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、なかなか地域との交流は出来ていないが、区長さんが花火の企画の際は連絡して頂き、窓から見学している。	地域の繋がりを大切にし、区長・民生委員の悩みや相談にも対応している。法人内で認知症カフェを開催し、小中学校の体験行事の受け入れにも取り組んでいる。利用者は雑巾を縫って町内に寄贈し、地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて事例を地域に発信。民生員さんを通じてほっとでの認知所カフェに地域の人と共に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回前もってメールで資料を送信し、zoom対応で報告し意見を頂いている。	家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センターが参加し、定期的開催している。運営内容ははじめ利用者状況や実践内容を報告している。地域住民も参加しやすいよう、Zoomのオンライン会議で開催し、スライドを活用してわかりやすく説明している。	運営推進会議の議事録を利用者家族などの関係者が来訪時に閲覧できるように設置することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあると長寿福祉課の前田さんに相談連絡メールをしている。	運営推進会議を軸に関係ができています。市による出前講座の開催などで連携を図っている。外部評価や目標達成計画についても報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在夜間帯のみコールマットと施錠をしているが、日中はドアをオープンし換気したり、子Ⓡるマットのスイッチも切っている。年2回拘束防止勉強会も講師を招き行っている。	身体拘束防止指針を整備し、月1回の部署ミーティングや年1回の外部講師による研修を全職員対象に実施している。玄関は施錠しているが、最寄りのコンビニエンスストアにも協力を得て見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師が来られ研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ利用している人はいなく、勉強会は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、時間をとって細かく説明を行っています。その後も24時間対応の携帯で随時連絡して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間対応の電話で日々のお話をしたり、お薬や差し入れを持って来られた時にお話させて頂いています。	利用開始時や年1回の家族のアンケートにより聞き取りを行っている。電話やメール、SNSを日常的に活用している。また、利用者の写真を掲載した月末報告書を毎月発行している。	匿名性を配慮し、玄関付近などに意見箱を設置することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングや日頃の提案をサービス課内会議にあげて提案することがある。	毎月第2月曜日の職員全体会や月1回の部署ミーティング、夕方のミーティング(申し送り)により情報共有や振り返りをしている。また、定期的に人事考課を含めた面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取ることで手当がアップしたり、日々の努力を賞与の際の面談で伝え、人事考課にも反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員、中堅、管理者向けとステップ1. 2. 3の研修がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回は面談実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に行っている。初回で聞き取りを行いケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前サービス事業所から情報を頂き、カンファをひらき今後の対応について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回のフィロソフィー会で学んでいる。方向性を合わせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のフィロソフィー会で学んでいる。方向性を合わせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍なためなかなか会えていない状態。手紙や電話、動画を送って感想を頂きコメントを本人に伝えている。ガラス越で会って頂いている。	家族や職員と共に喫茶店や美容室へ外出するなど、馴染みの関係が継続できるよう支援を行っている。また、携帯電話や手紙についても支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女子会を行ったり、企画を定期的に行いみんなで楽しむように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で相談になったり家に伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部屋担当を決め担当者から本人の希望などを聞き上げている。	入浴の支援時や夜間帯などに1対1で聞き取りをするなど工夫している。日頃の関わりの中で本人の意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々出来事を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々課題などに対して話し合いの時間を設けている。総合マネージメントでも話し合っている。	ミーティングを日々実施したり、多職種の職員が参画する総合マネジメント会議を月1回開催しモニタリングを行い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、メール発信にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度共有し多職種で支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源では初詣に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医のまま支援しています。	かかりつけ医は利用者、家族の希望に沿って対応している。受診には家族と管理者が同行している。医師への報告は、システムの記録を活用し看護師と相談しながら行っている。家族への連絡は、主に電話により行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師がいるためいつもと状態が違う場合報告。夜間帯も何かある時は待機の看護師に連絡し支持を頂いて対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師の方から主治医に連絡、状況を伝え指示を仰ぎ対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約に時点で終末期については本人、家族を交えて話し合っている。地域のかかりつけ医とも話し合っている。	看取りは、入居時や状況が変化した際に、家族の希望を確認し、医師など関係職員との話し合いにより実施している。昨年も看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師の方から勉強会実施して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年区長さん交えて災害行っている。今年6月30日に地震、火災訓練利用者様を交えて実施している。	緊急避難場所の指定になっており、春は火災、地震を想定し、冬は水害を想定した避難訓練を行っている。備蓄品は同法人の近くの事業所に3日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会から勉強会など行っている。	接遇委員会を設置し、委員会の企画による内部研修などを実施している。職員階級別の研修やテストも実施している。個人情報書類は事務所内の鍵付き棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋担当を決め担当者から本人の希望など聞き上げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、無理はせず本人の声を聞き上げながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容、利用しに来ていただきカットして頂いている。普段使用している化粧水、乳液を声掛けにて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の企画にて利用者のリクエストを聞き、スタッフ、利用者と共にみんなで材料を切ったり対応している。	利用者のリクエストに対応している。おかずは法人が経営する工場から冷凍状態で配送してもらうようにしており、事業所内でスチーム調理し提供している。味噌汁は利用者と共に作り、利用者ができることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	STと連携し食べれる食材にし、栄養が足りていない利用者には栄養食など追加して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕食後必ず口腔ケアを行い、仕上げはスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に時間を決めてトイレに誘導している。	排泄チェックシートに記入し、パターンの把握を行っている。集約したデータにより個別に支援をしている。また、同性介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便排尿をチェックしていますが、便秘気味の人には水分摂取、体操の声掛けに心かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は、時間をずらしたり曜日を変更したり対応している。拒否がある場合は歌を歌ったりしながら対応している。	個浴であり、週2回、午前中を基本としているが、希望により午前以外も対応している。リフト浴も利用することができる。季節の入浴も行っている。また、同性介助に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足のむくみ、昼夜逆転の方に対して日中配慮し夜間帯は眠れるように対応している。に日中は活動して頂いて夜寝て頂くよう務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々状態観察をして看護師に報告、看護師は主治医の指示のもと薬の対応を行っている。その際、CWIになぜ薬が必要か副作用は？を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やお針が得意な方に生活面対応して頂いたり、歌が上手な方は体操の後の歌を中心に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	菊人形や菜の花畑、桜のお花見など行っている。	事業所周辺の散歩をはじめ、鯖江市へ花見や市内の菊人形を見に行くなど、季節に応じた外出を支援している。利用者の希望にできる限り対応できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の中から日々補聴器の電池や歯磨き粉など買わせて頂いている。コロナが落ち着いたら買い物企画も再開したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙がきており喜ばれています。携帯や会社の電話でお話していることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは分かりやすいように表示をし、お部屋の前には大きく表札を付け飾りつけなど行っている。季節に応じて飾りつけを行っている。	建物が新しいこともあり、フロアは全体に明るく、空調も快適な温度を保っている。トイレと風呂は広々としていて、トイレは自助設備により自立支援に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に行かれたり、ソファを使用したりしている。気の合った利用者同士で女子会を行ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋で使われていたもの、家族の写真などを置き、季節の応じて衣替えも行っている。	新しく清潔感のある空間であり、シンプルでベッドのみ配置している。家具などの持ち込みや飾り付けは希望により対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが目が届くワンフロアになっている。手すりでの運動、テーブルを利用した運動などして頂いたり、生活面をして頂いたりしている。		